

【令和元年度 全学校協議会の報告集】

●令和元年度学校運営協議会（第3回）議事録

1 開催日時令和2年2月18日（火）15:00～17:00

2 開催会場本校会議室

3 出席者委員（5名）、校長・教頭・首席（兼進路指導主事）・指導教諭・教務主任・生徒指導主事・教育センター指導主事等（オブザーバー）

4 議題等（次第順）

○令和元年度学校経営計画及び学校評価について

○7期生進路状況について

○授業研究委員会の取組みについて

○令和2年度学校経営計画について

○その他

5 協議内容・承認事項等（意見の概要）

<平成31年度学校経営計画及び学校評価について>

- ・図書館利用が、年間119名で平均2日に1人は少ないのではないかと。生徒はインターネット等で調べる環境にあり、そこに依存しがち。図書を利用するということが高校生には学んでほしい。
- ・書籍数は少ない。新刊などは少ないので、利用につながらない部分もあると思う。
- ・図書費が毎年削られている現状はある。その中でも、利用の習慣を付けさせる工夫も必要。

<授業研究委員会の取組みについて>

・この7年間の記録は貴重。これを分析することで見えてくる部分もあるかと思う。実技の中に情報と探究が入ってくると思うが、積極性などが落ちかけているのが気になる。生徒がどう主体的に取り組むかが課題。

- ・興味・関心、知識・技能については、8割近い満足度にもつながっているので評価できる。
- ・教科活動、学習活動など、狭い意味での学校活動を評価しているように思う。文化祭・課外活動・部活動・生徒指導の状況など、教育活動の学習面以外の部分の評価も取ることが学校の総合的な評価につながるのではないかと思う。
- ・数値での評価も大切であるが、保護者としては数値よりも文化祭などの行事の印象がすごく大きい。行事に対する熱意が3・4期生では感じた。それは授業の雰囲気にも影響し、評価とも深く関係すると思う。

- ・細かい誤差は気にせず、全体の傾向を大まかにつかむべきかと思う。
- ・先生たちの技術の向上が感じ取れるのはすごいことだと思う。
- ・探究では、どのようなことに取り組んでいるのか。

⇒1年生については、演劇的手法で発表した。2年生については、地元の小学校にスマホの使用について出前授業に行った。3年生については、クエストエデュケーションに参加し、企業が示したお題に対して、商品やアイデアを提案し、発表した。今年も昨年にひきつづき、全国大会出場を果たした。全国2万人程度の参加者の中で200名程度（1%）が全国大会に参加できる。本校の探究活動が全

国にも通用していることが分かると思う。このような実績を発信していくことも重要だと改めて思った。

<7期生進路状況について>

・進路状況はどうか。

⇒1月末までの結果。14.4%が決まっていなかったが、おおむね昨年並みになると考えている。担任・進路指導部員ともに、生徒の性格等も考慮し、丁寧・適格な指導ができていると考えている。全体を通して、安全志向から指定校・公募推薦などが多かったように思う。

・「将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」について、昨年に比べて評価がさがっているようだが。

⇒3年生が最も下がっている。原因は2つあると考えている。

1つ目は、奨学金。今年度、日本学生支援機構の奨学金の制度が大きく変わった。例年だと5月に説明会を実施していたが、今年は国会の関係で6月となった。説明会には200名近い生徒、保護者が参加しており、奨学金対象者の可否決定も12月となった。もう一つは、共通テストと外部テスト。進路指導部としては、どのような状況になっても大丈夫なように準備させていたが、結果的にそれが全て無駄になってしまった。これらのことが進路指導に不信感を増加させたのかと思う。

<令和2年度学校経営計画について>

・次年度の学校経営計画は、本年度の課題に対応する形で作成されているので、承認する。

・どのように能力が向上したのか取組後の成果を教えて欲しい。

・今後の課題を分析し、対策を見直し、成果につなげてほしい。

●令和元年度学校運営協議会（第2回）議事録

1 開催日時令和元年12月17日（火）15:00～17:00

2 開催会場本校会議室

3 出席者委員（5名）、校長・教頭・首席（兼進路指導主事）・指導教諭・教務主任・生徒指導主事・教育センター指導主事等（オブザーバー）

4 議題等（次第順）

○今年度の進路状況（途中経過）について

○授業研究委員会の取組報告（アンケート結果）について

○11月授業研究月間の取組みについて

○その他

5 協議内容・承認事項等（意見の概要）

<進路状況（途中経過）について>

・給付型奨学金が拡大されたが、その影響はあったか。

⇒今年度の進学者の傾向は、入試が大きく変わるということで、安全思考が本校でも強まった。大学の合格者人数（定員）の厳格化が進んだことも大きな要因だが、給付型奨学金の拡大に絡んでは、余り影響はなかった。

<授業研究委員会の取組報告（アンケート結果）について>

・実技の評価が高く、とりわけ生徒の意識が高い。座学主体の授業との差があるのは何故だと考えているか。

⇒授業研究の成果だと思う。その他、実技主体の科目は少人数で、担当する先生も少なく強化を超えて、情報交換しやすい傾向もある。

・教科ごとの評価の違いでは、国語が高い評価を得ているがどのような工夫をしているのか。

⇒1年生は板書を基にした授業が中心で対話的な部分が多い訳ではないが、提出物などを丁寧に見ている。3年生では、国語表現などの科目で、3分間スピーチや新聞を作るなどの生徒の活動を中心としていることもあり、生徒のアンケート回答も良いと思う。このような取組みを取り入れて良かったと思っている。

<授業研究委員会の取組報告（実力テスト及びGTECの結果）について>

・GTECは初めてとのことだが、今後どうすすめていく予定か。

⇒英語の外部テストが大学入試に導入されると公表されていたため受験した。昨年度は、「学びの基礎診断」活用したが、両方では費用もかさむため、今回はGTECのみとした。次回の実施については改めて検討する。

・学力生活実態調査で「将来の仕事の可能性を広げてくれるから英語は学び甲斐がある」と答えた生徒は、国語・数学と比較して多い。学び甲斐があると感じたあと、どう実際の勉強に繋げるかが課題。自主的な学びに導くことが大事と思う。

⇒授業の中で社会の役に立つと感じてくれることはあるが、それが自学・自習に繋がらない。一人になった時に学習することが難しい。勉強の仕方が分からない生徒もいる。学校では、

先生の声かけや勉強合宿などを通して啓発や意識付けをしており、全体の底上げに繋げていきたい。

・教科によって違うとは思いますが、宿題についての方針はあるか？

⇒学校として決めていることはないが、殆どの教科で取り組んでいる。一方で、与えられた宿題は出来ても自ら課題を考えて取り組むにはまだハードルが高いように感じている。その点を改善しようとして実施したのがクローバープランのポートフォリオで、自学だからと生徒任せにせず、生徒と先生とのやりとりが重要だと思っている。

<11月授業研究月間の取組みについて>

・授業研究は以前から附属高校で取り組んでおり、教育センターと協力して行っているが、センターとしてどう考えているか。

⇒深い学びにつなげるための取組みは行えているようだが、学校全体に広がるまでは至っていないことが課題と考えている。

<その他>

・「探究ナビ」のキャリア教育について実践とその成果を教えてほしい。

⇒1年生の2学期に「仕事と人生」というテーマで授業をした。今の生徒は実体験に乏しいところがあり、将来のことを非常に狭い選択肢の中で選ぶ傾向がある。多様な進路・仕事を理解するために、自分の適性とかけ離れた仕事について調べ学習を行った。一つの職業を選び、企業の立場でそれを紹介するプレゼンテーション形式の授業とした。企業側に立つことで得られる視点もあり、困難とやりがいとは表裏一体であることを理解させた。仕事に対して、当事者意識を持てるようになったと思う。

1年生からそのような経験をした上で、多様な進路を考えるようになってほしい。

6 次回の日程

○令和2年2月中旬

● 令和元年度学校運営協議会（第1回）議事録

1 開催日時令和元年7月17日（水）15:00~17:00

2 開催会場本校会議室

3 出席者委員（5名）、校長・教頭・首席（兼進路指導主事）・指導教諭・教務主任・教育センター指導主事等（オブザーバー）

4 議題等（次第順）

○令和元年度学校経営計画について

○授業研究委員会の取組みについて

○進路状況について

○教科用図書選定調査委員会について

○その他

5 協議内容・承認事項等（意見の概要）

<計画全般について>

・新しい学習指導要領を先取りするパイロット校として、来年度には10年目を迎えることとなり、着実に成果も上がっている。日本の学校文化の良いところは残し、変えていくところは変えていくというバランスが大事だと考えているが、本校がその先導的な取組みを今後も続けていくことを期待している。

・今の社会から求められていることに応える形で、プランがよく練られていると思うので、今後も深めていっていただきたい。

<学習以外の活動について>

・学習活動以外の、生徒会活動や部活動、ボランティア活動については、学校経営計画の中でどう位置づけているのか。

⇒記載はしていないが、生徒会が「見守り隊」として近隣小学校付近の道路に立ち、小学生の交通安全を守る活動をしたり、部活動ではダンス部やバレー部のビーチバレーチームが全国大会に出場したりするなど、生徒たちが活躍している。

・学習活動以外にも重要なので、多様な価値を認めて、バランスの取れた生徒の育成に今後も努めてもらいたい。

・クローバープランの中に学校行事や部活動のことが入っている。生徒自らが評価するという部分について、生徒によるルーブリック評価は取組みが進んでいるという理解でよいか。

⇒探究ナビでは、今年度から全学年がICEモデルに基づいて生徒の振り返りシートを評価している。単に知識を得て終わるのではなく、それを活用したり、応用したりするまでを評価の対象としているので、生徒自身もそれを意識して学ぶようになっている。このような評価のあり方に慣れていくことで、今後、ICEルーブリックが他の教科に浸透しやすくなると思われる。

<防災について>

- ・防災について、地域との連携は具体的にはどうなっているか。
- ⇒住吉区との合同訓練を行い、地域の避難所として敷地内に非常用の物資も備蓄されている。今年度は1歩進んだ形で連携できないかと考えている。
- ・地域活動協議会の地域見守り支援システムとの連携等も考えてみてはどうか。
- ⇒住吉区とも情報交換をしながら取り組んでいきたい。

<進路状況について>

- ・大学入試が大きく変わるが、学校として何か取り組まれていることはあるか。
- ⇒本校生徒で大学入学共通テストに直接関係があるのは15～20名程度。私立大学の入試も大きく変わると言われてはいるので、GTECを受験させるなど、変化に備える取組みは進めている。
- ・授業料の無償化や給付型奨学金の新設の影響はどうか。
- ⇒多くの生徒が大学進学を希望しており、その数は年々増加している。今後は経済面で諦めていた生徒たちも進学をめざすようになると予想している。
- ・生徒の進路を実現していくことも学校側の大きな責任になってくる。今後も進路指導に力を入れていただきたい。
- ・定員の厳格化の影響もあると思うが、どんどんチャレンジして大学進学を実現しようという生徒が増えているので、対策をして支援をしてほしい。
- ・社会資源を活用した取組み（保育実習に行くなど）を行っているので、ぜひそういった取組みにも力を入れていただきたい。

<その他>

- ・さまざまな資料を出して、意見をもらいやすいようにすると良い。
- ・10年目を迎えるにあたり、成果と課題の総括と今後の方向性を出す段階に来ているので、これまでの取組みの分析が必要。
- ・大学等進学が初めて50%を超えたなど、大きく変化を遂げている。その分析を教育センターと附属高校がともにしていけないといけない10年を節目に振り返りと引継ぎの必要性がある。

6次回の日程

○令和元年 12月上旬